

国語 第3学年 言葉について考えよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、様子、行動、気持ちを表す言葉を比べ、自分が伝えたい場面に合う言葉を選ぶ。強い言葉や難しい言葉ほどよいと考えず、読み手が思い浮かべる様子の違いを確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答が出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「言葉について考えよう」 教材名「つたわる言葉で表そう」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちを表す語句を増やし、言葉が考えや思いを表す働きに気付ける。伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①様子や行動、気持ちを表す語句を増やし、言葉が考えや思いを表す働きに気付いている。

（〔知識及び技能〕(1)ア・〔知識及び技能〕(1)オ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直している。（B(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

様子、行動、気持ちを表す言葉を比べ、自分が伝えたい場面に合う言葉を選ぶ。強い言葉や難しい言葉ほどよいと考えず、読み手が思い浮かべる様子の違いを確かめる。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)ア・〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案ではB(1)エを活動に関わる事項として扱う。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

元の文と語句を替えた文を並べて読み、どの言葉からどんな様子が伝わったかを読み手が話す。言葉の意味が曖昧な場合は辞書で使い方を確認、児童の体験に合う例文を作る。おおむね満足できる状況は、伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

第1次 第1時：○日常で使う様子や行動の言葉を集め、似た言葉を比べる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○教師が作った短文の言葉を替え、思い浮かぶ場面の違いを話す。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時：○自分の経験を短く書き、伝えたい様子に合う語句を選んで書き直す。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第4時（本時）：○元の文と直した文を読み合い、伝わり方を基に言葉を選び直す。 評価：思①（発言・学習記録）

第3次 第5時：○表現の違いと選んだ理由をまとめ、日記などで使いたい言葉を記録する。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (4/5)

(1) 本時の目標

伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直せる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」

【めあて】様子、行動、気持ちを表す言葉を比べ、自分が伝えたい場面に合う言葉を選ぶ。

予想される児童の反応：・歩いたを別の言葉にすると、歩き方まで思い浮かぶ。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」

自分の文章から様子や気持ちを表す語句を選び、別の語句に替えた文と比べる。伝えたい場面に合う語句で文章を書き直し、修正前後を友達と読み合っ、伝わり方がどう変わったか確かめる。

予想される児童の反応：・歩いたを別の言葉にすると、歩き方まで思い浮かぶ。

・気持ちの強さが変わって伝わる。

・友達の言葉はよいけれど、自分の場面には合わない。

指導上の留意点：元の文と語句を替えた文を並べて読み、どの言葉からどんな様子が伝わったかを読み手が話す。言葉の意味が曖昧な場合は辞書で使い方を確かめ、児童の体験に合う例文を作る。

想定する難しさ：語句を増やすために意味の重なる言葉を重ねる。自分では見ていない動作や気持ちを付け足す。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直している。

(修正前後の文章・語句を選んだ理由)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・友達の言葉はよいけれど、自分の場面には合わない。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時に確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

